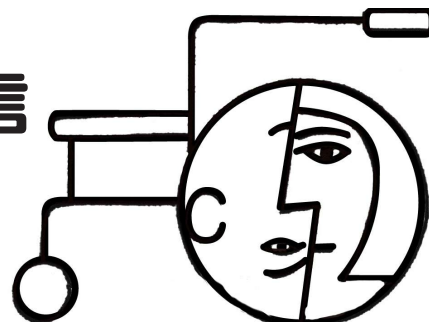


2022年4月7日 NO.129号

障害児・者サークル通信

発行：性教協★障害児・者サークル事務局
〒591-8046 大阪府堺市北区東三国ヶ丘町5-2-10 千住方
E-mail seikyokyo_kansai@yahoo.co.jp
HP <http://shogaiji.seikyokyo.org/>



●《特集》第27回障害児・者性教育セミナー報告	
●リレートーク「つながろう 広げよう すべての人に性の学びを」	1
●基調講演	3
●全体会「彼らの成長と共に—自信と誇りをもって自分を語る—」報告	4
●グループセッション報告	5
●障害と生きる青年たちの今から	7
●連載「親ばなれ—子ばなれ」(その6)	8
●お知らせ	10

《特集》第27回障害児・者性教育セミナー報告

リレートーク

「つながろう広げよう すべての人に性の学びを」

今回のリレートークは、山口県、愛知県、岐阜県をつないで行われた。まずは、山口県の特別支援学校教員、岡野さえ子さんから話が始まった。岡野さんが勤める学校は、「生命（いのち）の安全教育」モデル校として実践を行っているという。これまで小学部から高等部まで、幅広く性教育実践を行ってきた岡野さんは、このモデル事業に関わっていない。この事実から、「生命（いのち）の安全教育」は私たちが行っている、「科学・人権・自立・共生」に基づいた性教育とは別物だと管理者が認めたようなものなのではないかと邪推してしまう。岡野さんは性教協障害児・者サークルで学び続けながら、周囲の同僚とともに豊かな実践を作り上げてきた。その実践は、季刊セクシュアリティ誌や全国セミナーの模擬授業でも報告されている。岡野さんは実践で大切にしてきた科学的な学び、快の経験、集団での学びをそれぞれ保障すること、教師仲間と実践することを報告してくれた。現在の学校現場について、コロナ禍と急速なICT化、「失われゆくリアル、豊かなふれ

あい」と岡野さんは表現している。良くも悪くも学校が大きく変わろうとしていると。しかし、そんな中でも、そんな中でこそ、ピンチはチャンス！と学び、つながり、広げていこうという岡野さんに同じ教員として、共感しかない！という励まされたお話であった。

続いては愛知県の相談支援専門員、寺部佳代子さんのお話があった。寺部さんとは面識はないのだが、まるっと講座等で見かけるサムネイルが印象的な方だった。みなさんをご存じだろうか、寺部さんのサムネイル写真は沖縄県名護市辺野古のテント前から臨む海なのだ。（蛇足だが、休憩中に「辺野古ですか？」とダイレクトメッセージを送ったら、その通りだとお返事をいただき、嬉しかった。）相談支援専門員という立場の方がどのように性教育を行っているのだろうと、とても興味深くお話を伺った。寺部さんも、児童から青年まで、幅広い年齢の方に性教育を届けている報告があった。就労支援事業所における